



◀2003年公開作品▶
「らくだ銀座」
 八百屋の後継ぎの青年が、突然商店街に起こった「消えた「らくだ参り」資金」という事件を通して、まちと人々を幸せにする物語。東文化センターで公開オーディションを実施し話題に。
 監督 林弘樹
 出演 伊崎充則、宮本真希ほか



◀大工町
 主な撮影は、大工町。町の雰囲気は、今でも懐かしさと活気に溢れています。



◀2010年公開作品▶
「こもれば」
 女子大生アルバイトと暗い過去を持つペンションのオーナーとの心の交流を描く秀作。自主映画製作集団「福シネマ」第1回作品で、11月23日に「はくしんイベントホール」で上映。
 監督 小澤雅人
 出演 我妻三輪子、根本博成ほか



◀大昭和祭り
 大昭和祭りやホテル＆コテージ 白河「関の里」(表郷金山)などで撮影。

◀2011年公開予定作品▶
「エクレール〜お菓子放浪記」
 日本国中が戦火に包まれた時代、天涯孤独な孤児として、精一杯未来に向けて生き抜いた少年の物語。白河ロケは、南湖公園で行われ、東京から放浪してきた主人公アキオ少年が旅廻り芝居の一座と巡り合う重要なシーンを撮影しました。
 監督 近藤明男
 出演 石井一肇、高橋恵子、林敬三、いしだあゆみほか



①南湖公園での撮影シーン
 ②アキオ少年を演じた吉井一肇君のメークアップの様子
 ③近藤監督を激励した鈴木市長

◀1991年公開作品▶
「遊びの時間は終わらない」
 融通のきかない真面目な警官が、警察の予行演習で銀行強盗役演じたことから巻き起こる大騒動をユーモラスに描く。
 監督 萩庭貞明
 出演 本木雅弘、石橋蓮司ほか
 ◀総合運動公園
 総合運動公園で撮影され、多くのエキストラが参加。



◀2006年公開作品▶
「武士の一分」
 幕末に生きる武士の名誉と夫婦のさすなを描く。藤沢周平原作の「たそがれ清兵衛」「隠し剣 鬼の爪」に続く、山田洋次監督の時代劇三部作。木村拓哉主演が話題に。
 監督 山田洋次
 出演 木村拓哉、榎れいほか



◀小峰城
 撮影は、小峰城の前御門。小峰城は当時のままに復元したため、映画の中でも時代をリアルに映す効果がありました。



映画のシーン

映画やドラマの中の風景に、もう一度出会いたくなるのはなぜでしょう。大津宣彦監督の「転校生」ふたりなどの映画は広島県尾道市で撮影され、その後、映画を観た人々が尾道市に連日訪れる現象が起こりました。現在では、その地元経済への波及効果が認識され、多くの地方自治体やその他の団体等が支援とともにロケ地の誘致を行っています。それでは、白河市は「ロケ地」としてどう見られているのでしょうか。南湖公園でロケをスタートさせた近藤明男監督は「本当に素晴らしい場所だ」と話していました。映画人を魅了する財産がここ白河にあります。いつもの見慣れた風景が、映像というフィルターを通すことにより、新しい魅力を再発見させる力はまさにマジック。さあ、白河の映画シーンを一緒に歩いてみませんか。

□撮影スポットとしての白河

NPO法人カルチャーネットワーク
 ことろいっこう
 後藤一光さん



◇白河は素晴らしいロケーションの宝庫◇

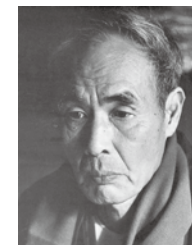
ロケ地としての白河の魅力は、まずは首都圏から近いということ、そしてなんといっても素晴らしいロケーションがたくさんあるということです。地域ロケにより、経済効果はもとより、「こんな素晴らしい場所だったんだ」と地域の魅力を再発見できることが一番だと思います。各地域では、映画やテレビのロケ地を誘致する組織である「フィルム・コミッション」を作るなどの動きはありますが、白河では人的な面などから撮影の協力という形で行っているのが現状です。しかしながら、市と共に住民がネットワークを密にし、地域の良さを外に発信していければ、映画ロケだけではなく新たな展開が待っていると確信しています。



来年公開予定の映画「エクレール〜お菓子放浪記」の撮影が南湖公園で行われました。今月号では、映画ロケ地としての白河の魅力「白河の映画シーンを歩こう」と題してお届けします。

白河の小説シーン

ここでは、映画だけではなく小説の世界も覗いてみましょう。



白河市出身(旧大信村)の作家
 なかやまよしお
 中山義秀

白河の小説シーンを語るうえで欠かせないのが芥川賞受賞作家・中山義秀。白河を舞台にした小説としては、「中山七里」「亡き山河」などのほか、県内では岩瀬郡長沼町(現須賀川市)を舞台にした「碑」があります。



注目BOOK
「渇いた夏」 柴田哲孝 著
 西郷村の家を相続した私立探偵・神山健介は、伯父の死の真相を探ります。母とともに少年時代を過ごした懐かしい地。だが、その美しい思い出すらも20年前に端を発した一連の事件へとつながっていきます。西郷村・白河市が舞台。市内の店舗が多く登場するハードボイルドミステリー。



注目BOOK
「天地人」 火坂雅志 著
 人々が己の「利」を求めて争った戦国の世。「義」の志を胸に、「愛」の一字を兜の前立てに掲げ戦った武将がいました。越後上杉家の家老・直江兼統の物語です。この小説は、2009年NHK大河ドラマとなり、徳川軍を迎え撃つべく主戦場へ選んだ華籠原(幻の白河決戦)には、多くの歴史ファンが訪れました。